

2013年度コーナーを振り返って No. 1

幼稚園クロークコーナー：4月…新入園の子どもたちの中には、着替え方がわからず、「できない！」「手伝って！」と言ったり、不安でお母さんから離れ難く泣き顔で登園する子もいました。そんな子どもたちを在園の子どもたちが正門まで迎えに行き、タオルのかけ方、出席ブックの印を押す場所、着替え方など一つ一つを優しく丁寧に教えてくれました。その毎日の積み重ねで、個人差はありますが、年少児も一人で着替えられるようになっていきました。年中児は順序よく丁寧に着替えられるように、年長児は集中して短時間で着替え、自分で身なりを整えられるようになってきました。クロークコーナーは園生活の最初のコーナーなので、朝のご家庭でのかかわりやその日の気分によって、意欲的に着替えが進む時と、そうでない時とがあります。朝は何かと忙しいと思いますが、時間と心に余裕をもって送り出していただければと思います。

3月は特に進級に向けて意欲的に着替える姿がたくさん見られました。来年度につながっていかれるように、ご家庭でも進級する喜びを自信に変えながら引き続きあたたかな応援をお願いいたします。(渡辺)



保育園クロークコーナー：進級当初、不安や戸惑いの中 年少さくらさんは、年中長児から生活の仕方や流れを丁寧に教えてもらいながら一つ一つ身に付けていく事が出来ました。

今年度のさくらさんは一日の始まりが早く、ほとんどの子ども達が8:30までには登園！ほほえみタイムから元気いっぱいな声が響いていました。

特に午睡後の着替えはマイペースで急ぐ姿がみられなかったのですが、進級にむけて「こすもすさん」が一緒におやつを食べるようになると、お手伝いがしたいという気持ちから着替えを頑張る姿がみられるようになりました。

登園の際、家庭からの気分を引きずり不安定な姿を見せたり、話を聞いて欲しい気持ちがいっぱいなたんぼぼさん！先を急いで慌てる姿に「ゆっくりでいいんだよ」「そんなに大きな声でなくても大丈夫だよ」と繰り返し伝えてきました。今は「お当

番の仕方」をすみれさんに教えてもらいながら年長になる意識を高めていっています。

そして4月当初から、保育園の小さな子はもちろん！幼稚園の新入児のお世話にも大奮闘してくれた年長すみれさん。昨年11月から小学校就学に向け、コーナー遊び終了後から幼稚園のコースで過ごし、午睡をなくしました。幼稚園の友だちと仲良しになり、コーナー片付けのお手伝いを楽しんでいました。小さな子は大きい子に憧れ、大きい子は年下の子にやさしさといったわる気持ちが自然と育ち受け継がれる「異年齢保育」の良さを実感できる嬉しい季節です。(小松原)

絵のコーナー：登園後、朝の身支度を済ませると自分のクレヨンと画用紙を持ち席に着きます。家庭から園生活への切り替えの場所としてゆっくり思い思いの絵を描きます。

一学期、新入園児の中には不安な様子の子もいましたが年長児に優しく誘ってもらったり、気の合う友達ができると笑顔で描けるようになりました。なぐり描きを楽しんでいた年少児は少しずつ自分の描きたいものを絵で表現できるようになってきました。

年中、年長児はいろいろな行事に参加したり経験することで楽しかった思い出をイメージ豊かに描いています。またお部屋に季節を感じられるような草花、カタツムリ、かぶと虫の幼虫などを



用意するとそれをみながら描いている姿もみられました。日々描く絵の他に誕生日の友だちへのネックレス作りや様々な素材(色鉛筆、絵の具、ろうソク)を使って絵を描く楽しさを味わってきました。今年度は特にクレヨン、鉛筆の持ち方、姿勢などに気をつけ見守ってきました。最初はクレヨンをにぎったり自分なりの持ち方になっていた子も今では自分で意識して正しい持ち方ができるようになってきています。また「背筋を伸ばすと素敵な絵が描けるよ」と声を掛けると姿勢を正して描けるようになってきました。ご家庭でも機会をみつけて一緒に楽しく練習してみてください。また、迷路や線書きを用意すると興味を持って取り組んでいました。引き出しの一番上は簡単なもの、下にいくにつれ難しくなっていくのですが、「全部やってみる」とたくさんの子が楽しんでいました。終了式には一年間の思い出の絵を持ちかえります。ご家庭で話をしながら一緒に振り返り、お子様の成長を感じていただければと思います。(高橋)

造形コーナー：4月当初は、不安な表情を見せていた新入園児の子も保育者や在園児の子に手を貸してもらいながら、ちょうちょやこいのぼり・カーネーションなどの季節の製作に取り組んだり、空き箱などの様々な材料で自分の作りたいものを形にしていって中で、次第に笑顔で製作を楽しむ姿がたくさん見られるようになりました。その後も季節を通してとんぼ、凧、コマ、そしてクリスマスやバレンタインなどの様々なカード作りをするなど、日々の製作を繰り返し、今ではよりイメージや興味を広げながら自分の作りたいものを作ることを楽しんでいます。課題制作(歯ブラシコップ、ふれあい広場の楽器、ハロウィンの衣装、スタンプを押したあめ袋や招待状、ひな人形など)の経験を重ねることで、細かな部分にも工夫をしたりじっくりと丁寧に取り組む力も育ってきています。また今年は初めての試みとして、先生達の自慢大会で先生手作りの船を紹介したことで、「同じように作ってみたい」と作り方をたずねてきて作ろうとしたり、そこへ自分なりのアイデア

を組み込んだり何日も時間をかけて、納得するまで取り組む姿が見られました。ちゅうりっぷさん、こすもすさんの子どもたちもお兄さんお姉さんの姿を見ながら自分でもマジックやハサミを手に思い思いに楽しむ姿があります。また、困っている友だちには「僕、私がお手伝いあげるね！」と小さな先生のように年下の子を思いやり、子ども同士でもアイデアを出し合うなど、お互いに刺激し合い成長する姿がたくさん見られた一年でした。※今年度もたくさんの材料を提供していただいたことで、子どもたちが毎日様々な材料を手にイメージを膨らませて製作活動を楽しむことができましたことに感謝致します。(加藤・菌部)

ごっこコーナー：1学期、初めての園生活に不安そうにしていた子も、期待をもち楽しみに来て遊んでいたおままごと！お姫様のようなドレスやドレッサーなど、憧れるような雰囲気のお部屋に毎日のように足を運んではお気に入りの衣装を着てお姫様やお母さん気分を味わう女の子たちでした。そんなおままごとコーナーでは、6月に内科検診や歯科検診を経験したことで“こどものもり病院ごっこ”が始まり、お医者さんや看護師さんになったり、人形を抱いて病院を訪れたり、病院での様子がイメージ豊かに表現されて、男の子も女の子も一緒になって遊ぶ姿がありました。2学期には園行事のバザーを経験したことから、“こどものもりお店屋さん”を開店し、本物のお店屋さんながらドーナツやジュース、ネックレス、ゲーム機などの品物だけでなく、お金やレジ、ポイントカードなども製作の部屋で作るなど、日常生活でのアイデアが沢山出てきました。また、3学期にはお正月を過ごし、園や友だちから年賀状が届く経験をした子どもたち。そのことをきっかけに“こどものもり郵便局”が開局しました。そこでは、大好きな友だちやご家族の方、先生へと一人ひとりが気持ちを込めながら丁寧にゆっくりと書いたり、受け取ったハガキに嬉しそうにお返事を出すなどのやりとりを楽しみました。子どもたちの身近な日常生活から遊びが発展していくごっこコーナーでは、一人ひとりが様々なアイデアを発想力豊かに膨らませて遊んでいます。遊びを通して友だちを思いやり、生活でのマナーを学んだり日々成長する姿を見せてくれた子どもたち。身近な大人が子どもたちの手本であり、憧れになっているのですね。(鈴木)

